

(様式3)

自己評価結果票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を掲げており、その理念を職員個々が理解し職務に就いている。又、理念を地域の方にも会議等において説明している。		年を追う毎に型を変えては行くが、理念自体はゆるぎ無く職員個々が理解している。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の通り管理者の指導の下、職員個々が理解し介護に携っている。		管理者を含めユニット毎の統率もリーダーを中心に作られており、チームケアが成り立っている。
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や運営推進委員会において説明を行い、内容を理解していただく様に努めている。		毎回の運営推進会議において報告を行っており、聞かれたホームを作り上げている。
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	掲示物やリーフレットを使用し、近隣住民が参加出来るような行事においては、参加を呼び掛ける方法を取っている。		地域運営推進会議を二ヶ月に一回実施しており参加して頂いたり、ふれあい喫茶では近所の方と利用者とのコミュニケーションも徐々に出来ている。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	残念ながら自治会の参加には至っておらず、今後の課題といえる。しかし、行事を行う事により前進しているといえる。	○	今後も近隣住民参加型のイベントを催し、地域住民との交流に努める事が必須である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室や介護保険の説明等を通じ、敷居の高い事業所を目指し日々取り組んでいる。		地域の中に溶け込み学校行事への参加、地域の行事への参加を行っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価の結果を全員が目を通し、フロアー会議等で話し合い改善に向けての努力をしている。		改善があれば即座に改善をし、よりよいホーム作りを行っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、地域における主要事業者や主要な人物においても意見交換を求めサービス向上に生かしている。		運営推進会議では報告している。家族会でも報告し話し合いを実施している。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの説明会や集団指導等に参加し、得た情報を職員と話し合いサービス向上に努めている。	○	運営推進会議の報告や生活保護者の対応相談等を、その都度させていただいている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度自体は知っているが、それについて職員全員で学ぶ機会を設けていない。現在この制度を利用している方はいない。	○	学ぶ機会を設け、職員の意識を深めていく必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	上記同様学ぶ機会を設けていないのが現実である。	○	上記同様必要である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	きちんとした契約書を作成・使用している為、トラブル等はなし。又、質問・疑問には詳しく回答している。	契約時には不明点を説明し、納得・理解していただいた上で契約を行っている。
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が苦情や不満を言い易い環境であり、実気兼ねなく言っておられるが、外部者に反映されているかは不明。	利用者自身が自分らしい生活を送る為、外部の施設や病院等に協力を得ている。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員が月初めに一筆箋を書き、月に一度近況報告をしている。又、「すみれ便り」を発行し異動等の報告を定期的に行っている。	事故等はもちろんの事、変化等があれば即座に家人へ報告をし、対応を仰いでいる。
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い意見交換の場を設けている。又、ご家族面会時にも意見等おっしゃりやすい雰囲気作りをしている。	家族会の際に率直な意見交換をして頂き、変更できる事例であれば改正をしている。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット毎に話し合いを行い、問題点や変更点があれば議題として扱い、管理者にフィードバックしている。	各ユニットリーダーを中心に意見交換されており、皆でホームを作り上げている。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者を筆頭に各ユニット毎のリーダーが職員の意見や状況を考慮し調整を行っている。	行事・会議があれば考慮したシフトを作成し、様々な対応ができるよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のＡＤＬを含めた状況を管理者が十分に把握し、各利用者により良いサービスを提供できるような適材適所といえる配慮を心がけている。		配置替えの際も利用者への影響が最小限に食い止められるように、職員の質を見極めた上で事を行っている。
５．人材の育成と支援				
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修もさる事ながらＯＪＴに関しては特に未経験者に対しては指導者を設け、より良い職員の育成に努めている。		ＯＪＴを行う際も経験者や上司が同じ勤務に就き、育成をあわせて確実にしている。
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の職員の見学の受け入れや研修も行い、又情報の交換等も行い当施設の発展に努めている。	○	同系列のグループホーム等の職員と話し合いをしたり、同業者の意見を聞き入れたりする中でよい部分は現場に取り入れている。
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者においては職員の話すを傍聴し、問題点があればその都度理解に努め、環境づくりに励んでいる。	○	年に数回慰労会なども行い、ストレス軽減に努めている。
22	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者においては個々の職員を理解し、実績の評価も納得のいく物と言え、向上心を持っている状況であると言える。		仕事内容も十分に考慮し、負担が最小限になるような工夫も行いその上で、正当な評価を下しスキルアップに努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の際、本人の情報収集をする時間を設け、初期段階において本人自身を熟知する機会を作っている。		入居の際、聴き取りを行った利用者とはその後も良好な関係が続いていると言える。
24 ○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者入居の際、家族の方に同席して頂き今迄の利用者の生活歴を利用者と共に聴き取りをしている。		入居後も訪問があれば現状を伝え、その都度より良い環境作りを行っている。
25 ○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は即時に職員間でカンファレンスを行い、問題解決に努めている。		利用者本人に取ってより良いと思われるのであれば他のサービス利用も実際に行っている。
26 ○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	聴き取りの際に家族の意見も取り入れ、その時点で利用者本人にも説明し職員も理解した上でサービス開始するように努める。		家族、時には利用者本人も含めた中で意見交換をし、その時点で行うことの出来る最も良いサービスを考え実行している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○ 利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日常においては共に家事をこなし、又行事においては遠足を筆頭に、共に時間を共有し支え合って日々過ごしている。		家事を行う際にも利用者に気持ちよく過ごしていただく様に声掛けにも気を使っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族訪問の際は利用者の現状や心身の変化を報告し、現状認識を共有し合いよい関係を保っている。		利用者を中心にして家族とも認識を共有し、共にその利用者を支えている。
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には利用者本人の居室にて家人の方が時間を共有され、今迄通りのより良い関係を保てていると言える。		必要以上に家族と利用者の間には立ち入る事なく、今迄の関係を大切にするよう見守っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人が希望すれば本人に馴染みの有る場所に出向いたり、馴染みの人の訪問があれば快く受け入れをしている。		定期的に手紙のやりとりや電話をされる利用者にも支援を行い、賀状等のあいさつも欠かさない様にしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しない様な席次を職員で話し合い、不都合が生じればその都度席替えを行い対応している。		席替えにて利用者同士良い関係ができています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現実には契約終了すると関係も終了している。	○	今後は、年中行事の中の夏まつりやふれあい喫茶等の告知を行い、参加を促すようにする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
１．一人ひとりの把握			
33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や要求は職員個々が熟知しており、その要求等も施設内の生活において出来る範囲であれば実践につなげている。	物品や衣類等も本人に合った物を選び、直接本人が店舗等に出向いたりし購入している。
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの病歴や生活歴等も入居前に資料に目を通し、入居の際に再度家人も含めて聴き取りをし確認を行っている。	○ 入居後ある程度時間が経つと日々の生活が中心になってしまい、これまでの暮らしを把握する機会が減ってしまっている為、時折入居前の話などをしながら更に理解を深めていくようにしていきたい。
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝夕の職員間の申し送りにおいて各利用者の心身状態等を個々の職員が把握出来ている。	現状を総合的に把握した上で、一日の過ごし方を利用者本人と話し合ったりしている。
２．より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家人の意見を尊重した上で定期的にフロアーチーム毎の会議を開催し、様々な視点からアイデアを出し合い、質の高い介護計画を作成している。	○ 本人が左記の会議に参加する機会が少ない為、可能な利用者には参加して頂けるようにしたい。
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状認識を確認する為に定期的にアセスメント・モニタリングを実施し、現状に即した計画を作成するように努めている。	細めに現状把握に努めている。本人や家族の要望や意見を取り入れてカンファレンスを行い見直している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々のカルテに日々の様子を記録し、各々の職員がそれを有効に利用・活用している。	○	情報の共有が万全とは言い難い面もある為、細めに情報の確認を行えるような時間や場を持てるように工夫したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のADL・取り巻く家族の状況を把握し、ニーズに合った対応を行っている。		系列の病院に受診だけではなく、リハビリも受けられるよう支援している。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	施設が予定した年間行事を中心に、それに応じた機関に協力を依頼し支援を行っている。		近所の高校からはボランティアの手を借り、行事等を盛り上げている。
41	○ 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特に利用者の生活の質の向上を考慮し必要な際は、他サービスを利用するよう支援している。具体的には他施設のデイサービス利用等。		本人本位に考え、環境等の変化が必要であれば利用回数も含めてより良いサービスを選択している。
42	○ 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議において、地域包括支援センターにも協働を依頼し適切なアドバイスも頂きサービス向上に生かしている。	○	左記の会議においてしかるべき担当者よりアドバイスを頂き、利用者のケアに生かしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームと連携している医療機関と密に連絡がとれる関係があり、常時適切な医療を受けられるようになっている。		入居前と同じかかりつけ医を希望される利用者には、引きつづき受診できるように支援している。
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ではないが、訪問診療等で常に相談する機会がある。		外部の専門医も利用し受診や投薬の相談をし、最善のケアを行っている。
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護との連携により、月に二回来訪あり。又、24時間訪問看護ステーションに連絡でき相談する事ができる。		急変が起こった際も左記の看護形態を充分に利用し、対応している。
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者のほとんどの方が関連している医療機関に入院される為、常に現在の病状を確認する事が出来、早期退院できるよう準備も万全にのぞむ事ができる。		入院された利用者と仲の良い利用者にお見舞いに来て頂く等し、入院中も安心して過ごせるよう支援している。
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当フロアーは比較的軽度な方が多く、家族様とも終末期について話し合いは行っていない。	○	今後レベルの低下が確実に起こるので、話し合う必要がある。
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合、提携病院に入院されるケースが多く当ホームにて終末を迎えられた利用者がいない為、今後の課題である。	○	今後当ホームでどの様に対応していくべきか、全スタッフで検討する事が必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリー等を作成し、現在の状況を提供している。		行き先の居所の担当者等に今迄の生活の様子を克明に伝え、利用者本人に影響が無いように努めている。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等はスタッフルームで記録・管理している。又、プライバシーを損ねる様な対応はスタッフ全員で行わないよう注意している。		言葉かけや対応は日々の事である為、職員が慢心しないように職員間で話し合い等を行う機会を定期的に持っている。
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	お誕生日には希望を伺い楽しんでいただくよう支援している。又、外出したい申し出があればお連れできる状況をできるだけ作るように努力している。	○	利用者全員にそれぞれ納得頂ける暮らしを提供できているとは言い難い為、特定の利用者に偏らないようにしたい。
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によっては職員側の都合を優先せざるをえない時もあり、常時希望通りには出来ていない。	○	職員不足により外出するとフロアーに職員が一名しかいない状況の日がある為、すぐに対応できるよう職員の増加が必要。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容が二ヶ月に一度あり、その理容を利用される利用者が多い為、ホーム外の理容室にはお連れしていない。	○	希望があればホーム外での美容室へお連れする事も検討したい。馴染みの美容室へ家族が連れて行って下さるケースもある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員・利用者共同で下準備や片付けを行っている。特に集中して一人の利用者に依頼していない。		各利用者のＡＤＬに合わせて調理等に携って頂いている。(座ってするのかキッチンで立ってするのか、長時間作業できるのか、できないのか等)
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒・喫煙はホーム内では禁止している。おやつは量を決め必要以上の摂取はストップしている。		各々が好きなおやつを選んで食べる機会が少ない為、今後栄養状態等も考慮しつつ増やしていきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	声掛けのみで失敗を防ぐ事ができる利用者の方には、定期的に声掛けを行っている。パット等交換困難な方には、介助し汚染を減らす様努力している。		トイレの失敗が多くなってきた利用者には気持ちに配慮しつつ、失敗を減らす事のできる方法を提案し実行している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	フロアー利用者と相談し、入浴日メンバーを決めている。入浴順も毎回同じ方が一番風呂にならないようにしている。	○	入浴時間は職員の都合になっている。が、今の人員では利用者の希望に沿う事は難しい。(特に夜間の入浴)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食事の時間以外は特に決まりはなく、自由に過ごしていただいている。基本的にお昼寝・就寝時間はご本人の自由にいただいている。		時間に制限される事無く、又体調にも留意しながら本人の意思を尊重し支援している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご自分の家で過ごされるのと同様、家事の得意な方には家事を、縫い物が得意な方には縫い物をしていただき役割分担をしている。		家事中心の役割分担なので、それ以外にも楽しみごとや気晴らしの支援を行えるようにしたい。(踊りの得意な利用者には、皆の前で披露できるような場を設ける等)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを家人様よりお預りし、外出時にはご自分で支払っていただいている。ただ、日頃の管理はホームにての管理。		過度な買い物等が無いように、物品購入時は職員が同行している。
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設せずいつでも戸外を散歩できるようにしている。又、お買い物等の訴え時には出来る限りご希望にそえるよう努力している。	○	買い物など少し遠出の場合はどうしても独歩の利用者中心となっている為、今後は人員等工夫し全ての利用者が同様に外出できるよう支援したい。
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見や遠足を企画し家人様にもお声掛けをし、フロアー全体で普段では行かない所へお連れしている。		家人様にも外出の支援をお願いしている。(墓参りなど)
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できる状態ではあるが、ご自分で電話番号をプッシュできる利用者の方がおられない為、職員がかけ出いただくという状態		面会の少ない利用者にはこちらから手紙を書いてはどうかと提案したり、又その作業の介助を行っている。遠方からの訪問の際は駅までの見送りに同行する等、少しでも長く親しい人と過ごせるよう支援している。
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご自由に面会していただけるよう雰囲気作りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。当フロアーにおいては現在まで拘束の事実はない。	○	「具体的な行為」を職員全てが正確に理解しているとは言いがたい為、勉強の場を設ける必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は職員が施錠する事はない。玄関においても利用者が出入りできるように施錠していない。		散歩や洗濯物の取り入れ等も比較的自由に行われているといえる。
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	単独で玄関から先へ出る際も必要であれば同行し、単独で移動するのが危険であれば介助を行っている。		玄関センサーも併用している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	なるだけあるがままの状態にしている。刃物や薬等は危険防止の為に職員が管理している。		リスクヘッジは行われており、個々の状態に応じて物品は必要な物はそのままにしてある。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の状態を把握した上で、事故を事前に防ぐ対策を個々の利用者に適した方法で行っている。		日々の利用者の状況の変化にも留意し、特に転倒に関しては見守りも強化している。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に訓練は行っているが、全ての職員に徹底していない。	○	新しい職員が入るたびに訓練を行うことができれば。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の訓練は定期的に行っている。が地域への働きかけは災害時の避難に関してはうすい。	○	近隣の理解を得、一緒に訓練を行うようにできれば。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い - 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者さんの希望に添って散歩に出掛けた時など職員が同行しリスクの回避を行っている。家族にもその都度現状を報告している。		全ての利用者の家族と話し合いの機会を設けているとは言えないので、今後設けるようにしたい。又、細めに情報のやり取りを行えるような環境作りをする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 - 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを行い訪問看護等で健康相談を行っている。異常があれば申し送り等で連絡し合っている。		急変があった場合は系列病院を時間関係なく利用し、速やかな対応をしている。
74	○服薬支援 - 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明を見やすくファイリングし、確認するようにしている。又、変更があればその都度申し送りし確認に努めている。が、一人一人完全に把握しているとは言えない。	○	誤薬等が無い様に職員一人一人が今以上に気を付ける。又、対応策も考える。
75	○便秘の予防と対応 - 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操を行ない、水分補給をうながし下剤も使用している。		下剤に関しても日々排尿・排便チェックを行い対応している。
76	○口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの際、見守りと介助を行っている。においの気になる利用者様には口臭予防を使用している。		義歯の手入れも含め、毎食後の口腔ケアは欠かさず行っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えたメニューでバランスよく摂取されている。個別に注意の必要な方にはチェック表を作成している。		居宅療養指導においても体重の変化を毎日チェックしながら栄養士の指示も仰いでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ等の接種は行っているが、細かい対応等は職員全員には徹底されていない。	○	対応に関する研修を行うようにする。
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の温度チェック・検食・調理器具の消毒等を行ない、食中毒の予防に努めている。		余剰な食材も常に賞味期限をチェックし、危険防止に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の花を置き明るくしているが、まだ入りにくいという声も聞く。	○	近隣の方には病院のようで入りにくいと聞き、玄関前を明るくし今は一ヶ月に一回玄関前にて「ふれあい喫茶」を開催し楽しんで頂いている。徐々ではあるが親しみやすくなっている。
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアー内テーブルには季節の花を飾るように心がけている。又、共有スペースには気軽に出入りできる環境作りを行っている。		毎日の清掃は当然のこと、利用者本人の使い勝手を考えた配置を考え生活している。
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは利用者同士自由に会話できるようにしている。仲の良い利用者同士で会話できるよう、テーブル席への配置にも気を付けている。		自席を指定しているものの、自由な時間にはそれに促される事なく利用者本人が自由にくつろいでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている家具や思い出の物等入居時、自由にお持ちいただきお部屋のレイアウトも利用者の方にまかせている。		馴染みの物品（特に食器等）は以前から使っている物を家や以前過ごしていた所より持ち込んでいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の施錠を解除し、いつでも自由に外の空気を居室に取り入れられるようにしている。		冬場の乾燥対策にも力を入れたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム自体がバリアフリーになっており、長い廊下には手摺りが設置されている。身体にやさしいつくりになっている。		消化装置やスプリンクラーも有り、トイレに関しても広い空間が確保されている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々のレベルに合わせた家事や雑務をお願いし、出来る喜びを感じていただくよう努力している。		食堂での自席が解らなくなる利用者には席に目立つ座布団を置くなどし、混乱を防いでいる。それによって他利用者もその方にアドバイスできるようになっている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダはないが施錠は行っていないので、物干し場やホーム周りの駐車場へは自由に出入りできる様にしている。		庭で活動できるよう、木の植替えなどを行った。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

・サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある ○ たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営推進会議などを通じて、地域の方々との交流が深まってきている。

(すみれ通信やふれあい喫茶、年間行事参加などで)